

季節を詠む、
時流を詠む

四季の歌

美野里短歌クラブ

交じり合う積乱雲と鱗雲筑波の空に季節は進む
旅立ちし百歳の母の自慢の手ぶよぶよしてて温かかった
太りきて良い事なしと思いたり日々の食事をスマホで記録
秋めきてその風涼し野路を行く車窓にゆらぐコスモスを見ゆ
コスモスの見ごろとなりて人集う花を愛でつつ切るも許さる

小川短歌会

短歌詠んで笑って泣いても一年が無事であれよと初日に祈る
一幅の絵をみる如し遠筑波入り陽反して山は夕映え
マスクして入学したる児らの瞳も月余経て親し朝の見守り
一枚の夜具に身体を寄せ合えば老いゆく中に妻の温もり
通院も今日で終われり咲き初むる梅の庭の歩みは軽し

玉里短歌会

突然に戦辞せずと武器構え増税せまる危うし平和
鍋もののおいしい季節湯気の中ドラマを見つつ缶ビールを飲む
目の手術終って見たる先生はイケメンだったおまけのごほうび
羽根をつく孫の両腕たくましく勢いあまって屋根を越えたり
枯れ菊を抜けば四方へ根を張りて新芽育みいるに驚く



菱沼友江	山口和代	宇都宮和子	碓谷きえ	白根沢清香	根本智恵子	石田はる江	幡谷啓子	佐藤啓正	中根良子	石橋吉生	鶴町文男	高田久子	正木敦子	野口初江
------	------	-------	------	-------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------

みづうみ俳句会

いざ子ども寒さも吹き飛ぶ鬼ごっこ
着地してなお陽を仰ぐ寒椿
鏡餅買い供えては亡母に侘び
寒波来てしかと地を踏み散歩かな
おだやかに青空高く寒の入り

みのり俳句会

相寄りし冬満月と一ツ星
一つ翔ち二つ翔ち鴨群れて翔ち
皇帝グリア空に野望のあるごとく
冬晴れや筑波峯雲を寄せつけず
落葉して庭の明るさ戻りけり

櫂の会

人日やしなやかに反るしごき系
文机に履歴書ありて久女の忌
一夜明け寿ぎの膳冬ぬくし
人の世のロスタイムかな返り花
空きりり応えておりぬ冬櫂

くるみ俳句会

軒先に毬より丸く寒雀
白波をけたてて沖へ初漁船
箱根路へひたすら走る寒き朝
省みて自分を恥じる去年今年
初夢の吉事に顔のほころびぬ

たまり俳句会

寒晴れや筑波きりりと藍深し
お正月明るい年に今年こそ
卯の年の明くや六度目年男
退院の夫と拝みし初明り
逢ひたいと友の添へ書き賀状受く

小美玉川柳会

健康は大事だが豚バラは好き
断ち切れぬ想い根雪の奥に埋め
人間が仮想空間入り込む
子丑寅卯十二支回る7回目
玄関で呼び鈴マスクおあわわ

三村れい子	長島美奈子	長島さか江	長島久美子	長島昭	塚田文清	友藤清子	佐藤清心	島田清香	白根澤清	岡島禮久子	矢口富恵	石田敏恵	網代奈津江	木村小夜子	大曾根菊女	信田工ミ	小原篁村	島田睦子	城垣睦子	野口初江	長谷川光男	松田通喜	矢口康子	大石康子	下重悟史	原富貴子	枝川白堂	大盛食平	梶原平
-------	-------	-------	-------	-----	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	-------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-----